



学校だより

10月号

横浜市立大道小学校

令和5年9月29日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

「声に出そう!」

毎朝、子どもたちを出迎えていると、心が温まるようなことがあります。先日、1年生の子が真新しい運動靴を履いていることに気付いたので、「おはよう。おっ、新しい靴だね。」と声をかけました。「今日、初めて履くの。」と言うので、「かっこいいね。新しい靴を履くと、気持ちいいよね。」と返すと、その子は「運動会で速く走れるようになって…」と笑うと、昇降口に向かって走って行きました。私は、その子が家族と一緒に靴を選んでいる様子や、その時の会話を想像し、何だかほっこりとした気持ちになりました。1年生にとっては初めての、6年生にとっては最後の「大道ふれあい運動会」まで、あと3週間です。今年も、「大道っ子」の輝く姿がたくさん見られるのが、楽しみです。

9月の朝会で、「声に出そう!」という話をしました。あいさつは、「声に出す」ことで初めて相手に伝わります。友達との関係でも同じでしょう。

スマートフォン、SNS のお陰で、私たちは十数年前に比べて格段に便利な生活を手に入れました。私自身も、様々な買い物、予約等を「スマホ」で行っています。そして、仕事でも私生活でも、もはや欠かせないものとなっているのが「LINE」です。しかし、何年か前から、「LINE」の使い方について考えさせられることが多くなってきました。私は、「LINE」を適切に使える条件となるのが、ある程度「会話」「対話」の経験を積んでいることだと考えています。その経験がまだ十分とは言えない小学生が「LINE」を使う場合、どんなことが起こり得るでしょう。あえて「マイナス面」だけを考えてみました。皆様は、どのようにお考えになるでしょうか。

直接顔を合わせることなく、小さな画面の中で言葉のやりとりをするだけでは、伝えられないことがたくさんあります。都合の悪いこと、言いにくいことを「LINE」で伝え、面と向かって話さずに済ませていると、相手の表情を汲み取ったり、自分の気持ちを伝えたりする力が身に付きにくくなる可能性があります。また、チャットのような短文が多くなるので、受け取り方によっては、反対の意味に伝わる場合も少なくありません。そして、実際に会っては言わないことでも、「LINE」の中では言えてしまうことがあります。その一つが「悪口」です。グループの場合、それが膨らんでいくことがあります。どうしても「他人に合わせる」という気持ちがはたらいってしまうからでしょう。

そして、私が心配になるのは、「LINE」での人間関係を保つことを意識するあまり、子どもが「自分らしさ」をのびのびと出せなくなっているのではないかとことです。はっきりとものを言ったり、人と違うことをやったりすることを避け、無意識のうちに安全な方へと舵(かじ)を切ってしまうのではないかと思います。やはり、実際に相手と向き合い、話したり、笑ったり、時には言い争ったりするなど、お互いに「自分」を出し合う中で、より良い関係を築いていくことが必要だと思います。

もちろん、「LINE」には良い点もあります。上手に使えると大変便利です。だからこそ、成長段階にある子どもが、傷付いたり、自分を出すことをためらったりしないよう、私たち大人には大切な「役割」と「責任」があるのではないのでしょうか。やはり「コミュニケーション」の基本は、「会話」「対話」です。学校でも、子どもが「声に出して」自分の思いや考えを話す機会が増えていくよう、働きかけていきたいと思っています。

ご家庭で、話題にしていただけたら幸いです。